



広島オリーブ会

オリーブひろしま

広島オリーブ会会報

第23号

2017(平成29)年5月27日発行

広島オリーブ会

事務局・〒730-0533
広島市中区小網町2-1

電話・082(297)0533
FAX・082(297)5210

http://www.hiroshima-olive.info



美術鑑賞会〜ひろしま美術館 ランス美術館展印象記

2017年3月19日 藤本真弓 29回生

「藤本さん、『フ』が抜けるよ。」幹事会で皆さんにランス美術館展のご案内を配ったところ、先輩から指摘を受けた。そうか、「フ」をつけたらフランス美術館だ、と変に感心したが、実は「ランス市」にある美術館のことだった。そしてランス市はシャンパンの産地、シャンパーニュ地方の中核都市だとか。花より団子、シャンパンと聞いて俄然興味がつのり、楽しみに

その日を迎えた。広島オリーブ会では毎年美術鑑賞会を行っている。この数年はひろしま美術館で、古谷学芸部長の解説を聴きながら鑑賞するのが定番だ。音声ガイドを聴けばとても勉強になり楽しめるが、それよりも生解説ははるかに興味深い。まずは、古典的絵画と近代的絵画との違いについて。王様の価値観に基づいてストーリーを絵にした古典絵画に對

し、フランス革命以降の広く一般市民の多様な価値観に基づいた(だから、何でもあり、だそうです)近代絵画。技術に重きを置き、忠実な写実を基本とした古典絵画に對して、印象を大事にし想像力を膨らませた近代絵画。改まった記念写真に對して、日常を表現するスナップ写真、とも例えられていた。もちろんはっきりに線引きはできないようだが、そう言われて

見直せば確かに違ふ。合点。伝えたいことはたくさんあるが、多すぎるので以下省略。一枚の絵に含まれる膨大な意味、メッセージ、それを理解し噛み締めながら観て回る。古谷学芸部長神様に観る。さらに音声ガイドと決定的に違ふのは、裏話やこぼれ話

くこの絵画は、解説の背面を赤くする、という決まりだとか。鑑賞には直接関係がないが、こんな情報は妙に記憶に残り、楽しさも倍増する。



し、オルセー美術館が検討に検討を重ね、導かれた結論は『グレー』。数年前のオルセー美術館の改装工事では壁紙をグレーにしたとか。是非確認に行ってみたい、と気持ち弾む。そして、有名なシャパンブランドのポメラリーがランス美術館に寄贈した多

るから不思議です。その後13時過ぎに下山して、横川にて昼食を兼ねてビールで乾杯しました。下山後のビールのおいしさは格別です。

秋の登山 三滝連山



昨年の10月9日(日)に、恒例となった22回生有志と合同での青年部登山が開催されました。この登山は、毎回広島市内の山に日帰り登るもので、気軽に参加できて、登山の達成感が味わえる、とても好きな企画です。今回は、前回参加できずひさびさだったため、登りきれぬ不安でしたが、三滝寺の奥にある山はどんなのか興味があり、参加しました。

当日は、前日からの雨も上がって秋晴れとなり、参加者は7回生1名、22回生4名、29回生1名、37回生1名の7名に加え、31回生のご子息1名(小5)の計8名でした。この5年生の男の子が元気いっぱい、しんどい登山をとても楽しくしてくれて、いつもよりきつさを感じずに登ることができました。子ども

の力は偉大です。JR三滝駅を出発して、広島市三滝少年自然の家を抜けて山道に入り、小坊(しゃんぼ)岩を越えて展望台(標高約200m)に着くと、いきなり広島市内が見渡せ、こんな街の近くでも、この景色が見られることにびっくりしました。さらに登り、高峠山の山頂(標高237m)を越えて尾根を歩き、11時50分頃、三滝山と呼ばれる宗箇山頂上(標高356m)に到着しました。ここからは、市内から広がる瀬戸内海まで満喫でき、身近に体験できる異空間にとっても感激しました。来てよかったと思つ瞬間です。

帰りは、尾根を進んで、三滝寺に降りました。普段はなかなか行くことのない、本堂の奥に第一の「幽明の滝」を見つけ、その後、第二の「梵音(ぼんおん)の滝」を廻り、りっぱな滝と静寂な雰囲気癒やされました。何度か来たことのある三滝寺でしたが、登山で寄ると一味違って見え



(29回生 北村年弘)

広島オリーブ会の佐藤会長をはじめ幹事会ご出席の先輩方のご意見も頂戴しつつ、藤本事務局長ほか事務局の方々の絶大なご支援もいただきながら、皆様に楽しい時間をお過ごしただけのよう、幹事として37回生一同頑張りたいと思っております。何とぞよろしくお願ひします。



(37回生 栗田博正)



山中高女の 慰霊祭に参列して

36回生
川端英之

毎年8月6日には、福山附属の前身校の一つである山中高等女学校の原爆死没者慰霊祭が催される。私は、2016年に、初めて慰霊祭に参列した。福山附属を卒業して28年目の夏のことだ。

山中高女やその慰霊祭のことは、自分が福山附属の生徒だった頃から耳にすることはあったが、自分の生活との接点を実感することはほとんどなかった。高校卒業後は福山附属の同窓会とも疎遠になっていた、そんな私が山中高女の慰霊祭に参列したいと思った切っ掛けは、2016年5月に行われた広島オリーブ会総会への参加である。幹事学年の一人として声を掛けられての初参加であったので、当時は何も知らなかったが、第32回広島オリーブ会総会は、山中高女の同窓会である橘香会の第127回総会との合同開催ということであった。橘香会独自の同窓会活動は平成16年に閉じられていたそうだが、あくまでも橘香会としての広島オリーブ会であるという認識が根底にある。そして、山中高女の慰霊祭は、地元の町内会の方々と広島オリーブ会とで協力して引き続き営まれているとのことである。慰霊祭に対する広島オリーブ会の考えを語る佐藤会長の強い信念に感銘を受け、私もその場に立ち会ってみたいと思うに至った。

厳かな空気の中始まった慰霊祭は、追悼の辞、8時15分の黙祷、献花と続き、次第に和んだ雰囲気となっていく。福山附属校友会から参列の若き高校生は、私たちの頃と全く変わらぬ懐かしい制服姿であった。久々に顔を合わせた参列者同士の挨拶や、時には談笑も聞こえる中、私は敷地の端の方に立ってじっと献花の列を眺めていた。そのとき、山中高女に通ったという方が私に話しかけて下さった。

87歳になられるというその大先輩は、毎年この慰霊祭に参列なさるといふ。そして決まって、前の日には眠れないのだとのこと。同じく山中高女に通い、亡くなられた妹さんが、賢くて可愛らしくて我慢だったそうだ。あの日、妹さんを探していたら、幸いまだ息が残っている時に会えた、山の中で一晩一緒に過ごしたとのこと。妹さんは水を飲みたがっていただけでも飲ませたらいけないと聞かされていたので飲ませなかったんだそうだ。飲ませてあげればよかったのかなあ、と呟いていらした。



大震災からちょうど5年半となりませんが、偶然か必然か定かではありませんが、17回生の橘先輩が製作した映画「太陽の蓋」の鑑賞会が横川シネマにおいて行われました。鑑賞会の参加者は同伴者を含め総勢で8名と、小規模な映画館としては丁度いい感じの参加人数であったかと思えます。

久しぶりにいい映画を観たという実感です。東日本大震災から福島原発の事故を取り巻く様々な人物の行動を

多面的に描いており、映画として不可欠なサスペンス調のシーンも行き過ぎたCGを用いることなく、効果的に取り込みながら、多数の登場人物の心情を巧みに映像化している、まさにスクリーンに引き込まれてしまう映像となっています。

また興味深い点はこの報道番組、記事を見るよりも、この映画を観ることでこのたびの原発の事故がどれだけの影響を及ぼすものであるかを、主役の報道記者が地図を用いながら、追っていくことで、ストーリーに沿って自然に理解できるような構成されていることです。かつ重要な情報は必ずしも関係者(当然住民にも)にタイムリーには伝えることができないという問題

Table with 2 columns: 氏名 (Name) and クロスネット (Cross Net). Lists names and scores for the Spring Golf Competition.

『太陽の蓋』

鑑賞会を経て

この映画を観た直後、私たちの住む広島近辺の原発はどうなのかということが気になる、インターネットで調べてみました。ご承知のように着々と再稼働が始まっています。熊本地震の影響が誘発としてこれからどうなっていくのか気になるところです。映画を振り返り、目に見えないものの、よくわからないことへの恐怖を改めて実感します。

この映画はすでに過去となった災害、事故を映像化しているものではないと思えます。私たちの生活、リスク管理の現在、近い将来を考えると、ために貴重なメッセージとなっている。

Table with 2 columns: 氏名 (Name) and クロスネット (Cross Net). Lists names and scores for the Autumn Golf Competition.

「なんで戦争なんかになっただんかねえ。原爆二つ落ちたけど、二つだけでもういいよねえ。」

大先輩は、妹さんのこと以外にも、お兄さんやご両親のこと、当時嫌いだっただんなのこと、山中高女の先生のこと、山中高女が好きだったこと、

が、実際に起こったことなのだが、戦争が終わって、もう72年になろうとしている。人の一生の長さぐらいの時間が経っている。それを昨日のことのようにはっきりと覚えている人々がいるのだ。当時を思い返すと今も眠れないという人々が懸命に生きている。親兄弟や友人のことを想い続けている人々。子どもたちの未来を案じ折り続けている人々。悲惨な出来事を、忘れようとするのか、忘れまいとするのか、思いは様々だろうけれども、誰もが長い間もがき苦しむことを強いられながら、生きていく。誰のために。何のために。

恒例のゴルフコンペ。今年度は2017年5月7日(日)に開催しました。5月7日(日)春のゴルフコンペが本郷カントリーにて開催されました。今回は14名+ゲスト1名の参加となりました。優勝は、31回生の平木泰典先輩。グロス76、ネット66の好スコアでの勝利でした。ご本人曰く、「ベストスコアタイ記録です。でも、アウトインとも30台のスコアは初めて。オリーブ会のコンペでは、不思議と毎回良いスコアになる」とのこと。

10月16日(日)秋のゴルフコンペが本郷カントリーにて開催されました。今回は16名+ゲスト2名の参加となりました。優勝は、10回生の打江功先輩。ご本人曰く、「久しぶりの優勝」とのことでしたが、2009年秋のコンペ以来の7年ぶりの栄冠に輝かれました。ドラコンも取得され、2位に7打差と実力を発揮されたの優勝でした。

親しく集える仲間の輪を。会員の皆様、お元気で過ごしていきましょう。広島オリーブ会も年を重ねるにつれ、毎年新しい後輩が参加してくれ、世代を超えたなかで、様々な行事を発売に行っており、結構な頻度で行事が行われているのは、広島オリーブ会の特色だといえるでしょう。

その中に、私たちの大切な行事として、8月6日の山中高女原爆死没者慰霊祭の運営があります。高齢となられた橘香会の先輩方に代わり、この慰霊祭を続けていくことに

も、大いに意義のあることだと思えます。今年から岡山でオリーブ会が発足するそうです。全国で活躍する福山附属の卒業生が、生活の基盤とする各地において、オリーブ会としての活動を広げて行くことは、母校を想い、友を想う大切な場だと考えます。

広島オリーブ会の皆さん、私達も各地のオリーブ会のメンバーと交流を深めながら、更に私達の会を盛り上げて行くことではありませぬ。

Portrait of Hiroshi Sato, Chairman of Hiroshima Olive Club, with his name and title below.